

第3回 学校運営協議会 1月8日（土）10:00～ ICT 教室

| | | |
|-----|----------|-------------|
| 出席者 | 会長 | 妹尾 久雄 |
| | 副会長 | 渡部 昭司 |
| | コーディネーター | 矢野 真一 |
| | 委員 | 鈴木 綾 |
| | 委員 | 小野 修平 |
| | 委員 | 宮本 尚登（校長） |
| | 委員 | 矢崎 慶（副校長） |
| | | 海老塚京子（主幹教諭） |
| | | 小川 壮司（主幹教諭） |

市教育委員会事務局（教育企画課）

● 校長あいさつ

今日の次第についてですが、まず今年度の取組についてご報告いただきたい。次に、熟議として、学校と地域の協働活動について、特に、保護者の皆様の活動や学校応援団のあり方について話し合いを進めていきたい。なお、次回は、学校評価についてまとめていきたいと考えている。

この一年、西東京市内のコミュニティ・スクールとしての様々な取組を進めてきたが、今後、市内全校で展開するにあたって、方向性を示す取組になったのではないかと思う。来年度は、熟議を中心に実施していきたい。

明保中は感染予防を徹底しながら、3月に音楽祭を予定している。また「外に行かない遠足」第3弾として、本気のかくれんぼも計画している。どちらもコロナに影響されない計画している。

皆様のご協力をいただきながら、今年も無事に乗り越えていきたい。

● 今年度の取組について（報告）

① VR を活用した取組

「外に行かない遠足」第2弾として、「VR によるバンジージャンプ」を実施した。VR ゴーグルを着けて「葛飾北斎」などの絵の中に入る体験や専用の装置に乗って、東京都庁からバンジージャンプをする体験を行った。生徒も大変盛り上がり楽しんでいった。当日は市長・教育長等関係者の皆様にも体験していただけた。明治安田生命様と株式会社ロジリティ様にご協力をいただくことで、保護者の皆様に費用をご負担いただくことなく実施できた。

なお、「外に行かない遠足」第1弾は、プロジェクションマッピングを実施した。本

校の職員が生徒を喜ばせたいという思いから、時間をかけて制作したものである。

「外に行かない遠足」第3弾は、3月16日に「本気のかくれんぼ」を予定している。

② 子ども・地域応援企画提案事業（星空ピクニック）

スケートはコロナ禍のためアイスアリーナ側から不可とされた。代わりに「スペースファンタジーライブ」として体育館に星空映像を映写しながらピアノ演奏を聴き、宇宙を感じられる体験を行った。補助金により取組ができた。生徒にも好評であり、癒されたひとときだった。

③ 放課後の見守り活動（放課後ステイルーム）

11月11日から期末テスト前の学習の場の提供として実施した。各日17人・18人・9人、3日間でのべ44人の参加となった。家ではなかなか勉強ができない子が来たり、教え合ったりする場面もあった。いろんな形で開催したい。冬休みの予定した日は参加がなかった。来年度は工夫していきたい。

3学期は期末テスト前の2月に3日間を予定している。案内配布は学校でお願いしたい。受付するだけの世話人を増やしたい。

④ 修繕活動（学校応援団プロジェクト）

玄関のペンキ塗りを2月23日・26日に予定している。2月の市報に掲載し、募集を開始する。本校の保護者の皆様以外で、地域の皆様方に参加をお願いしたい。HP・チラシ・市報・ツイッター等で募集していく。さび止め・中塗り・上塗りと3回塗っていく。

校長：保護者の皆様以外で、どれだけの方が来てくれるか、楽しみである。

まずは実施して、今後、課題については整理していきたい。

また、学校応援団の名称を考えてほしいといわれているが、本校では「学校応援団」という名称をそのまま使用したい。 →委員全員賛成

● 熟議「学校と地域の協働活動について」

～時代に応じた「保護者の皆様の活動（参画）」のあり方～

～学校応援団の方向性～

校長 学校と地域や保護者の皆様との関係はどうあるべきか、今後の「教師と保護者の会」のあり方も含めて、皆さんと考えていきたい。

教師と保護者の会の活動については、必要な仕事を最低限の負担で実現できる組織となるよう再編策を検討した。ご検討いただきたい。

委員 私の考えも校長先生の考えに近い。今後、地域・保護者と学校で、教師と保護者の会議の組織を見直すことが必要だと思う。

委員 私は校長先生の考えを残念に思う。去年はコロナ禍で活動ができなかつ

た。今年もこの状況で活動が難しい状況であった。今、働くお母さんが増えている中で、東小ではお母さん方の中から保護者の会についていろいろ考えていこうとする声が出てきている。学校側からではなく保護者から変えるために考えていこうとする声が必要である。

この提案に移行したら元には戻れない。学校の先生方と保護者を繋ぐ役は大切である。本校のPTA広報誌「ハーモニー」は学校と保護者を繋ぐ役を担っている。広報誌担当の委員になった人は保護者みんなの代表としてやっている。保護者も学校に対していろいろと言いたいことがある。その声を代表の人が聞き、まとめてそのことを学校に伝えていくという大事な役割がなくなるのは、私たちは困る。

委員 今まで役員立候補に手を挙げられなかった人も、手を挙げられるようにするために、何を整理し何を足せばよいか考えていきたい。

委員 今まで役員は、保護者の代表として学校・保護者・地域とどのように関わってきたのだろうか。保護者・地域等の意見をまとめたりすることはあったのか。

委員 学校は保護者側からの意見を聞く必要があり、その点からもハーモニーは保護者の意見を掲載していて私たちにとって必要なものである。また先生方にも原稿を依頼して掲載するなど内容も楽しめるものになっている。昨年度、ハーモニーは発行できなかった。ハーモニーは市内合同委員会の報告も掲載したこともあった。コロナの影響で発行できてないが、保護者の意見を聞き、掲載していくことも必要だと思っている。地区委員さんより制服リサイクルについても掲載したこともあった。

委員 今回の提案は方向性を示したものである。話し合いでご意見を出していただいて、改善していきたい。不都合があれば戻せばよい。このための準備委員会を作る必要があると思う。

委員 準備委員会は必要だと思う。

委員 準備委員会に加えて、活動部隊も必要。

委員 一人では決められない。一人では何も始められないと思う。

見直しするべきだ。私の考えも学校側に近い。地域の防犯についてだが、学校は避難所であって、地域の防犯については組織として考えていかなければならない。

委員 今年度、役員の選出の段階から手を挙げた人はほぼゼロであった。保護者の負担が大きい。応援団にすると、話し合う場をどうするか。4役が集まろうとしても難しい。人数が多くなればなるほど集まるのは難しい。この案のように、方向性を示しながら仕事を明確に、わかりやすくしていきたい。来年度、今までのものをその通りにやるのは大変である。やるもの、やらないものを考えていかなければならないと思う。

- 委員 「こんな組織にしたい」と目標を3点あげると、①やりたくなる組織 ②係りを孤立させない組織 ③プロジェクトチームを作る。
保護者がかかわろう、やってみようという気持ちになる組織にしたい。この気持ちは皆さんのなかでゼロではないと思う。
- 委員 保護者に向けて、組織が変わるというアナウンスも必要。来年度は保護者の会、学校応援団等の方向性を決めていく。
- 委員 来年度中には決めていけるのではないか思っている。
- 委員 その他、ゲストティーチャーの件についてはどうするか。
- 委員 人材があれば次回プレゼンしてほしい。

*次回 2月15日 14:30～